

詠む広場

毎日俳壇

井上 康明 選

片山由美子 選

小川 輕舟 選

西村 和子 選

牛角力勝ちな牛の大きな目

倉敷市 中路 修平

清明や野菜サラダを大盛りに

和歌山市 宮本 啓子

鶯やオレカッコーオレサイコー

神戸市 松田 薫

啄木の墓より海の春惜しむ

富士市 後藤 秋臣

△評▽「牛角力」は晩春の季語と
とった。日本各地で始まり、秋ま
でつづく。闘いに勝った牛の興奮
した目が、荒々しく誇らしげだ。
駅前には湖裏は麦の秋

△評▽4月のはじめの清明のころは
万物がいよいよ生きている。朝の食
卓だろうか。大盛りの野菜サラダ
から生気をもらえそう。
ブラウスの弾む水玉夏に入る

△評▽雄のウグイスは縄張りを守
るために必死で鳴くのだという。
でも、あの声はまさにこの句のよ
うに聞こえなくもない。
万博の海風薄暑晴れ渡る

△評▽石川啄木の墓は函館の立待
岬にある。北国の遅い春を惜しむ
気持ちと、若くして逝った歌人を
悼む思いとが重なる。
花寂れ己が齢を知りにけり

名古屋市 可知 豊親

加古川市 伏見 昌子

白井市 毘舎利道弘

笠間市 伊藤 邦夫

△評▽湖と麦秋の麦畑、その真ん
中に駅。広々とした夏の風景は、
湖の青と麦畑の黄色が鮮やか。
トロフィーに映るイレブン風光る

△評▽大きな水玉なのだろう。弾
む水玉としたことで、はつらつと
した気分が伝わってくる。
せせらぎのひかりをどるや水の春

△評▽大阪・関西万博が開幕し
た。大屋根リングの上に立って会
場を眺めた実感だろう。
虚子の忌や石に腰掛け空を見る

△評▽「花寂れ」とは花見に行っ
て心身が疲れること。自分の身の
衰えを実感した誘因が優雅。
三日目の雨に崩れし白牡丹

北本市 萩原 行博

那須塩原市 谷口 弘

那須塩原市 柴田 道子

愛知 坪井 怪子

牡丹の唄る音す夜半の庭

奈良 高尾山 昭

東京 石川 黎

岡山市 三好 泥子

茨城 矢次富士子

短夜やまた読み返す母の文

つくば市 小林 浦波

大阪市 隠樹ノリエ

富士市 後藤 秋臣

甲府市 村田 一広

残雪の奥も残雪越の山

東京 山口 照男

北九州市 篠原 敬祐

市川市 高野 厚夫

神戸市 松田 薫

夕薄曇りにメガフォン声囁らし

相模原市 小山 鞠子

つくば市 小林 浦波

龍ヶ崎 小宮 光司

西東京市 永島 忠

素足とは青き畳を踏みてこそ

東京 福島 照子

弥富市 富田 範保

流山市 小林 紀彦

我孫子市 桑原真喜子

一匹の蛸が尾をふる子のバケツ

浜松市 久野 茂樹

久喜市 小林 通子

富士市 村田 新一

吹田市 小森 淳子

夕焼や布グロップに棒バット

川越市 益子さとし

嘉麻市 堺 成美

行田市 荻原 義久

豊田市 松本 文

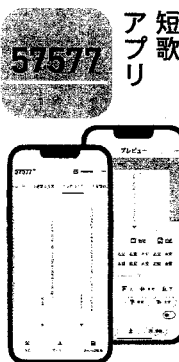
アプリで

推し短歌

アプリ「57577」の投稿からユーザー人気をふまえて歌人の
天野慶さんが選歌と評を担当します。アプリは右のQRコード
または<https://tanka.one/>からダウンロードできます。



短歌
アプリ



お題「緑」

・「緑」緑と同じく「ろ」と読むところから、
あなたもこのくらいだよ、チヨモランマ中田
お題の「緑」を、カラーではなく漢字
の形でとらえた視点が新鮮です。意味は
全然違いますが、少し離れてみたら見聞
違えるような「緑」と「緑」。そのくら
いの違いでしかないと言われたら、肩の
力がふと抜けそうです。5月の緑が、い
つしかふたりの縁になりそうな予感も。
・ゴーギャンがどんな緑を使っても私の
思う五月は来ない 瑞波草
・ピカソでもセザンヌでもない、ゴーギ
ャンの緑。南国タヒチの島々で描かれた
名作たちは、鮮やかなフルーツの緑から
深い森の緑まで、カバールできないほどの
5月を「私」は思っている。どんな色の
5月なのか、想像が膨らみます。画家の
固有名称を上手に使っている一首です。
・もしいつかちっちゃくなったらアポカ
リの緑のときをおさんぼしたい 卯白
「もし〇〇になったら」というわくわ
くする上の句に、ちよっと「〇」となる
下の句の組み合わせが魅力的です。食ベ
るの熟したアポカだったたら、べとべ
としてちよっと歩みにくそう。でもだか
らこそ、バランスを取りながら夢中で歩
るべくと歩いてしまいうさそうだね。

次回のお題「水」(6月23日掲載)